

インターカルト日本語学校
日本語教員養成研究所

日本語教師養成講座

JAPANESE LANGUAGE TEACHERS` TRAINING PROGRAM



CROSS-CULTURAL COMMUNICATIONS
インターカルト日本語学校

インターカートの 日本語教員養成研究所のコー

日本語教師 養成コース 教育訓練給付金対象講座



日本語教師の資格を得たい! 基礎から学ぶ 420 時間の
修了後、**すぐに教壇に立てる**、実践力のある日本語教師
6ヶ月間毎日学ぶか、週2~3日で1年間学ぶか選択でき

理論・実技ともに
充実した
カリキュラム

実技は理論と並行して学びます。理論で学んだことを実技で生かし、実技で生じた問題を理論で解決していくので、現場での実践力が養われます。日本語教育能力検定試験に対応し、専門家としての知識・能力が確実に身につきます。

双方向の授業で
自ら考える力を養成

教師が問いかけ、受講生が答えるという対話の授業を基本としています。教師の問いに自らあるいはグループで考えることで、気づきや発見を数多く体験します。この体験が教育現場で起こる問題点を自ら分析する力を育成します。

日本語学校の
学生を相手に
教育実習

教育実習は、併設の日本語学校の外国人学生を相手に行います。実習項目に合ったレベルのクラスから選抜し、実際の授業と同じ条件の下で実習をすることで、学生のレベルに合わせた教え方が身につきます。

日本語教師 養成コース 実習の流れ

担当教員と個別指導を受けながら進める実習



公開相談

学生が指導項目の分析等を行って発表、クラス全体で議論する。



実習練習

実習担当者がクラスメートの前で練習を行う。

教育実習 コース



外国人相手の実習で授業力を身につける

日本語教育の理論は知っていても、教えることに不安がある方のためのコースです。実際に外国人に日本語を教えてみることで、自信を持って授業に臨めるようになります。

2回の対学生実習を通じて、教案作成、副教材の準備、クラス運営、パフォーマンスなど、初級授業の基本を身につけることができます。

このコースの対象となる方

- 日本語教師能力検定試験に合格した方
- 大学等で日本語教育等を専攻した方
- 日本語教育機関の採用試験を受ける方
- 日本語教師養成講座を修了した方
- 日本語教室で日本語を教える方
- 日本語学校の新人日本語教師

スを紹介します

本格的な**養成コース**。
を目指します。
ます。



講師の多くは 経験豊富な 日本語教師

講師は現役の日本語教師であり、教育現場の経験を豊富に持っています。日本語教育の理論や技術が実際の現場でどのように活用されているのか、講師の経験談をとおして知ることができるので、生きた理論や技術を学ぶことができます。

実際のクラスの中で 授業体験

日本語学校の教室に入り、実際の教育現場を体験します。クラスの担当教師の授業をサポートする中で現場だからこそのわかるクラス運営を学びます。また、現職教師の仕事ぶりや現場の様子もプロになる前に知ることができます。

就職ガイダンスで 在学中から 就職サポート

就職ガイダンスや個人相談、各日本語教育機関の採用説明会があります。また海外提携校の紹介、青年海外協力隊に関する情報提供など、就職活動を全力でサポートします。当インターカルト日本語学校での採用の道もあります。

外国語を オプションで 受講可能

中国語、韓国語、インドネシア語、ポルトガル語から習ったことのない言語を選択し、ネイティブの先生から直接法で授業を受けます。立場を学生に代えてみることで自分が教えるときのヒントも得られでしょう。(授業料は別途頂戴します。)



個人相談

練習後の反省や修正をする。対学生実習日までに担当教師に教案を提出する。



日本語学校の学生への実習

初級実習は 25 分を 1 回と、50 分を 1 回実施。



フィードバック

実習の様子をビデオに録画し、実習後ビデオを見ながらフィードバックを行う。

このコースで学べること

- 直接法による導入方法
- 文型導入から定着までの授業の流れ
- 外国人学生とのコミュニケーションの取り方
- 文型定着のための効果的な練習方法



インターカルの 日本語教師養成講座は、こんな

日本語を学びたいすべての人に
Japanese for everyone who needs it.

今、世界中で日本語を学習している人の数をご存知ですか。日本国内には13万5千人余り¹、海外には約298万人²、この数は年々増え続けています。そんな、日本語を必要とするすべての人の、日本語教育に関わるあらゆるニーズに応えたいというのが私たちの願いであり、学校の理念でもあります。

日本語教師は、世界に向けて、その最前線に立つ仕事です。世界中の人たちが、自分の気持ちや伝えたいことを日本語で言い表すことができるようになる、その手助けができたならばいいと思いませんか。

実際の日本語指導の場面では、学習者たちが、言葉や表現の意味や使われる場面を正確に理解し、それらを使ってより高度で自然なコミュニケーションを展開する能力を身につけることを目標としています。日本語教師のそこの役割は“ファシリテーター”です。

自分で考えること、考えてみることによって、どんな場面にも臨機応変に対応できる、真のコミュニケーション能力を引き出すことのできる、日本語教育のプロを私たちは育成しています。

インターカルト日本語学校 日本語教員養成研究所 所長 加藤早苗

¹ 135,514人(平成17年度国内の日本語教育の概要(文化庁))
² 2,979,820人(2006年海外日本語教育機関調査(国際交流基金))

Q1

実習は他校の養成講座とどこが違うんですか。



当養成講座では、まず初級で外国人学生を相手に一人2回(25分・50分)の実習をします。ここでは教案作りから対学生の実習まで、全て自分ひとりで行う個人実習です。担当講師が個人相談等を通じて細かい指導をいたしますが、自分で考えた教案で自分の個性を発揮して実習をしていただきたいと思えます。

実習に参加する学生は、当校で実際に日本語を勉強している外国人学生の中から選抜します。初級では日本語学校の授業と実習の進度を合わせてあります。学生がこれから習う文型や表現を教えることによって、実際の授業と同じ条件の下で実習をすることができます。

中級では、実習の前に日本語学校の実際のクラスに一定期間毎週入り、授業参加します。ティーチング・アシスタントとしてクラスの担当教師のサポートをしながら、授業の中で学生との生のコミュニケーションを学びます。その経験を生かしてお互い意見を出し合い、みんなで協力してひとつの授業を組み立てて実施するグループ実習(40分)を行います。

選抜された学生は、実習期間中同じメンバーで行ないますので、彼らの成長を間近で感じることができます。そして共に日本語を勉強していく雰囲気が自然に生まれ、交流も深まります。



Q2

授業の振り替えは
できますか。



日本語教師養成コースは4月期、10月期にそれぞれ一クラスで開講するため、授業の振り替えはできません。その代わりにビデオ補講をいたします。事前に欠席の連絡をいただいた場合は、その日の授業をビデオで録画いたします。後日、学校でそのビデオを見ていただいて出席とします(実習科目は除きます)。ある科目に出席できなかった場合、その科目の担当教員にご相談ください。それぞれの受講生に合わせて、欠席した授業内容を埋めるフォローをしてくれるでしょう。少人数一クラスだからこそ、教員が受講生と話す時間が多く取れ、個々人に対してしっかり対応ができます。

特徴があります



私たちは、インターカルの日本語教師養成講座を推薦します。



生きていることばの学習を目標とした総合的な指導 (名古屋外国語大学学長 水谷 修先生)

インターカルの日本語教育の特色は、生きていることばの学習を目標にコミュニケーション基盤もがっちり押さえた総合的な指導態勢にある。そしてそれを30年間たゆまず守り続けてきたインターカルト日本語学校に絶大な拍手を送りたい。



多様な受講生たちのあふれるエネルギーと探究心 (名古屋外国語大学院教授 カッケンブツシュ知念寛子先生)

インターカルの大きな特徴は多様な背景、経験を持った受講生がみんな仲良く助け合いながら勉強していることです。受講生たちのエネルギーとパワー、探求心にいつも圧倒されます。理論と実践を日本語教育の両輪としてしっかり位置づけたカリキュラムも魅力的です。



考え表現する、チャレンジ精神旺盛な日本語教師たち (早稲田大学大学院日本語教育研究科 細川英雄先生)

「私はどのような教室をめざすのか」—インターカルト日本語学校での2回にわたる議論のテーマだ。初回の熱いやりどりの次は、じゃ、どうするか、という方向へ。嬉しかったのは、参加教師たちのチャレンジ精神だ。考えて表現する、この元気がいい!日本語教師をめざす人よ、こんな学校の養成講座で世界に羽ばたく力をつけてみたくはないか。

Q3

クラスはどんな雰囲気ですか。



每期少人数1クラスの開講ですから、小・中学校のときのようにクラスのみんなが同じ授業を受けます。在学中、みんなで自主的に実習の練習をしたり、授業で分からない内容を教えあったりする光景をよく見かけます。また、修了後も同期という意識が強く、同期会をしたり、同期でホームページを立ち上げたりして情報交換をしているという話を修了生からよく聞きます。修了生と当養成研究所の教職員とのつながりも強いので、修了生の協力により年に1回、本格的な「研究発表会」を開催しています。

クラスメート、学校の教職員との関係は、アットホームな雰囲気です。

Q4

外国人との交流はありますか。



当教員養成研究所はインターカルト日本語学校の中にあります。休憩所や自習室など共有スペースでは、ごく自然に外国人学生と接することができます。日本語教師養成コースの授業では、日本語学校の学生を対象に実習を行いますので、それがきっかけとなり交流が深まります。学校行事においても月に1度、交流会を開催しており、お茶を飲みながら学生たちと楽しく話ができます。また半年に一度、学校全体での旅行(夏:一泊旅行、冬:日帰り旅行)があります。毎年日本語教師養成コースの受講生も参加(希望者)し、楽しい思い出になったと好評です。

Q5

就職のサポートはありますか。



受講生一人一人に就職希望をお聞きし、そのデータに基づき個別に就職情報を提供しています。また当校のホームページ上で登録していただくと当校に来た就職情報を随時メールでお知らせいたします。国内、海外各地で活躍する多くの修了生がいますので、現地の情報を聞くこともできます。また各日本語教育機関の採用担当者の方を当校にお呼びして採用説明会を開催し、求人情報だけでは得られないお話をさせていただきます。

インターカルト日本語学校も日本語教師の採用を定期的に行っています。また提携校(裏表紙参照)への就職の道もあります。

インターカルの 修了生たちは、国内外で活躍し

養成講座のノートは今も手離せない

福田 博さん(2001年10月生・写真前列右)

●今、教えている教育機関・学校名：中国 河南科技大学

●養成講座のどんな授業が役に立っていますか？

養成講座の授業はやはり基本であり、これ無しにはできないと感じています。文法等を整理したノートは何かにつけて見ます。また、インターカルのオリジナル教科書を自分なりに整理した資料は、大変役に立っています。

●海外ならではの喜びや悩みはありますか？

仕事のやりかた、情報伝達方法等は各国固有の習慣(文化)があります。当然、日本とは違いますので、戸惑い、時には怒り

を覚えることもあります。しかし、怒るのではなく自衛することを考えました。卑近な例で言えば、テスト問題の作成を締め切り直前に言われ、怒るのではなく、試験時期を予想し早めに問題を作成しておきます。また、我々から見ると必要以上に学生を規則で縛っており、時にはやりにくい場合もありますが、これが中国流なのだ割り切っています。



臨機応変の対応能力を養成講座で身につけた

佐々木信子さん(1999年4月生)

●今、教えている教育機関・学校名：インターカルト日本語学校

●インターカルの養成講座を受講した理由を教えてください。

実習をはじめ、授業の科目、内容がとても充実していると感じました。すぐに教壇に立ちたいと思っていたので、この学校なら、実践力がつけられるのではないかと思います。受講することを決めました。

●修了後に実際に教壇に立ってみての感想をお聞かせください。

いくらいい教案ができたと思って、教案通りに進むということはずななく、予期せぬことが多々あります。そのような時に、臨機応変に対応する能力をこの養成講座で身に付けることができました。次

はもっと学生の役に立つ授業ができるようにと、常に向上心を持ってられる仕事です。

●今は、日本語学校でどんな仕事をしていますか。

専任教師として日本語を教えることと、初級のカリキュラムや教材作成、学校行事等の仕事をしていました。その後、香港で1年間日本語を教え、現在は、インターカルト・ランゲージセンター(ILC)で短期コースの教務をしています。



豊富な実習と知的好奇心を刺激するカリキュラム

野島 直子さん(2004年4月生)

●今、教えている教育機関・学校名：多文化共生センター東京(NPO法人)「たぶんかフリースクール」

●インターカルの養成講座を受講した理由を教えてください。

2003年4月からの受講を決めるにあたり、複数の養成講座・学校を検討しました。インターカルの養成講座は、実習の時間が長いことが大きなポイントでした。科目も魅力的でしたし、この機会にいろいろな授業を受けたいと思いました。知的好奇心が刺激されました。

●「たぶんかフリースクール」とはどのようなところですか？

現在、日本国内の外国人登録は200万人を超えています。日本で暮らすさまざまな外国人の状況をもっと知りたいという気

持ちがあり、このNPOに行き着きました。

今は、日本の高校への進学を目指す十代の人を中心に教えています。日本語学校の学生と比べて、学習目的や背景がさまざまであり、生活指導的な面も多くあります。教え方についても養成講座で学んだことを生かしつつ試行錯誤しています。単調な授業にはついてきませんし、本当に日々格闘しています。



ています



経験を積むごとに、知識が自信につながっていく

仁井 勇佑さん(2003年4月生・写真右)

●今、教えている教育機関・学校名：青年海外協力隊・短期派遣プログラム バヌアツ共和国・モンマート

●養成講座の授業はどんな授業でしたか？

養成講座卒業後、海外で日本語教師として働いて三年目。養成講座での半年間の経験は、今でも私を支えています。経験を積むごとに、授業で学んだことが知識としてだけでなく意味のあるモノとして理解できるようになってきました。それが、日本語教師としての私の大きな自信につながっています。

●海外で日本語を教えて困ったこと気付いたことはありますか？

日本語教材の不足、調達の困難さ、インターネット環境の未整備などが挙げられます。授業の準備に苦勞することが多いで

すが、苦勞も生徒の顔を見ると忘れてしまいます。「こんにちは」とあいさつをされると、どんなに疲れていても思わず笑顔で「こんにちは」と返す自分がいます。また、日本語教師として一番嬉しいのは、授業中に難しそうな顔をしていた生徒が「分かった」顔になった時です。



学生からの発言が、私の大切な財産

力丸 真耶さん(2004年4月生・写真右)

●今、教えている教育機関・学校名：ジャカルタコミュニケーションクラブ(JCC)

●修了後、実際に教壇に立ってみての感想をお聞かせください。

「実習」での勉強のおかげで、教案作りの際、根本的な大切な部分を見失わずに作れています。教壇に立つと、思いもかけない質問であったり、想定していた答えがなかったりと、なかなかうまくいかないことも多いのですが、学習者の発言はどんな発言でも勉強であり、私にとって大切な財産になっています。

●インドネシアの学生たち、そして授業はいかがですか。

日本で学んでいる学生よりかなりのんびりしています。授業の準備は大変ですが、日本語の勉強だけではなく「日本をもっと

知りたい」と思っている学習者が多いので、とてもやりがいがあります。

クラスで話をしながら授業をしていると、大変さを忘れます。

いろいろな国の人と話したい。だから日本語を教える。私がかもっとも生き生きと輝ける時なのです。



【海外提携先】

● **インドネシア Jakarta Communication Club (JCC)**

住所：Jl.Cipaku2 No.27 Kebayoran Baru Jakarta-Selatan INDONESIA
TEL：+62-7203966/72791829
<http://jccindonesia.com/home.html>

● **ベトナム SAIGON INTERNATIONAL SCHOOL OF LANGUAGE & BUSINESS**

住所：2 Truong Dinh,Ward6,Dist3, Hochiminh City,Vietnam
TEL：+84-8-9-9330774
<http://www.saigonlanguage.com/>

● **タイ JEDUCATION CENTER**

住所：2303 23th Fl. Liberty Square 287 Silom Rd. Bangkok 10500 Thailand
TEL：+66 -2-267-7726
<http://www.jeducation.com/center/japan/index.html>

● **シンガポール 地球人 (Chi Kyu Jin Learning Centre)**

住所：350 Orchard Road#21-06 Shaw House Singapore 238868
TEL：+65-6736-2603
<http://www.chikyujinlearning.com>

● **香港 日経日本語学校**

住所：九龍佐敦道 9-11 號高基大廈 2 樓
TEL：+852-2770-0993
<http://www.nikkei.edu.hk/ecmanage/eccm/cat604.php>

● **韓国 サミサ日本語学院**

住所：SEOUL 市西大門区滄川洞 30-1 現代第 2 別館 4 層
TEL：+82-2-335-3241
<http://www.samisa.com>

● **台湾 新民高級中学**

TEL：台中市 404 北區三民路三段 289 號
TEL：+886-4-2233-4105
<http://www.shinmin.tc.edu.tw>

インターカルト日本語学校 日本語教員養成研究所

〒110-0016 東京都台東区台東 2-20-9

TEL：03-5816-4861 FAX：03-5816-4862

URL：http://www.incul.com

E-mail：yosei@incul.com

